



## 焦点：OPEC主要国、バイデン政権を警戒 協調減産体制に亀裂も

【ロンドン/ドバイ 9日 ロイター】 - 複数の関係筋によると、米大統領選で民主党のバイデン候補が勝利したことを受けて、石油輸出国機構（OPEC）とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」に亀裂が生じるのではないかとの懸念がOPEC主要国の間で浮上している。

バイデン氏が、OPECの盟主サウジアラビアや制裁対象のイラン、ベネズエラ、またOPECプラスで主導的な役割を担うロシアとの外交関係を修正するのではないかとの見方が背景だ。

トランプ政権は、対イラン・ベネズエラ制裁を厳格に履行。これにより、原油の供給が細り、原油価格が値上がりしていた。バイデン氏が将来、制裁を緩和すれば、原油生産が増え、OPEC内で需給バランスを取ることが難しくなりかねない。

バイデン氏は、一方的に制裁を科してきたトランプ氏とは異なり、多国間主義の外交政策が望ましいとの考えを示している。選挙戦では、イランが2015年の核合意を順守すれば、米国は核合意に復帰すると発言している。

あるOPEC関係者は「イランが原油市場に復帰すれば、再び供給過剰となり、現在の協調減産がリスクにさらされる」と指摘。「ロシアが協調減産から離脱するリスクもある。そうなれば協調減産は崩壊する。ロシアを協調減産に参加させたのはトランプ氏だ」と述べた。

<ロシアを最大の脅威と名指し>

バイデン氏は、安全保障上最大の脅威としてロシアを名指しし、選挙戦ではサウジとの関係を見直すことも公約に掲げた。[nL4N28J159][nL4N2HH2FX]

トランプ氏は、国内エネルギー産業を保護するため、原油安競争を繰り広げていたサウジとロシアに政治的な圧力をかけた。これが前例のないOPECプラスの協調減産につながった。

トランプ氏は、サウジの事実上の支配者であるムハンマド・ビン・サルマン皇太子と密接な関係を築いたほか、OPECに対しても、生産量の決定や原油の値動きについてツイッターでたびたびコメントするなど、積極的に関与する姿勢を見せてきた。バイデン氏はOPECと距離を置く可能性が高いとみられている。

アルジェリアのヘリル石油相は「バイデン氏は、顧問の専門的な助言に頼るとみられ、トランプ氏のように行動を逐一管理することはないだろう」と指摘。「トランプ氏とは違って、ロシアのプーチン大統領と親密な関係を築くこともないとみられる」との見方を示した。

<抜本的な関係見直しは予想せず>

もっとも、バイデン氏がサウジとの外交関係を抜本的に見直す可能性は低い。湾岸諸国の外交筋は、数十年かけて築き上げた同盟関係をバイデン氏が打ち壊すことはない予想している。[nL4N2HJ0SD]

また、イランの石油政策に詳しい関係筋は、バイデン氏の勝利を歓迎する一方、制裁が速やかに解除されることはないとの見方を示した。

同筋は「たとえイランの制裁が解除されたとしても、原油輸出量を制裁前の水準に戻すには技術的な問題で2-4カ月かかる。OPECプラスには新たな生産上限を決定する十分な時間的余裕がある」と述べた。

## 石油・鉄鋼、広がる警戒感

### 米産業界から反応相次ぐ

【ニューヨーク＝中山修志】米大統領選で当選確実となった民主党のバイデン前副大統領を巡り、米産業界から反応が相次いだ。新型コロナウイルス対策や気候変動対応のインフラ投資には期待が強まるが、トランプ政権の規制緩和や保護関税を支持した石油、鉄鋼業界は警戒している。

米旅行協会は7日の声明で「コロナ対策に焦点を当て、旅行業界を支援するというバイデン氏の政策を支持する」と新政権に期待を寄せた。

民主党の支持基盤である全米自動車労組（UAW）は「友人であるバイデン次期大統領に協力す

## 旅行・気候変動関連は歓迎

ることを楽しみにしている」とコメントした。

米ソーラー・エネルギー業界協会も「気候変動と闘うバイデン政権によって、我々の業界に何十万もの雇用が創出される」と歓迎した。バイデン氏はクリーンエネルギーなどのインフラに4年で2兆ドル（約206兆円）を投資すると表明済みだ。

一方、製造業やエネルギーの業界団体からはバイデン氏が表明する法人増税や環境規制の強化を警戒する声が上がった。

全米製造業者協会（NAM）は7日の声明で「選挙で共和党が得た支持をみれば、米国民が極端な

政策を求めていることは明らかだ」とバイデン次期政権をけん制した。

政権交代を大きな逆風と受け止めるのが石油業界だ。米石油協会（API）はトランプ氏が制した南部テキサス州や最後までもつれた東部ペンシルベニア州を念頭に「多くの激戦州で、有権者はエネルギー産業による何百万の雇用と経済利益に投票した」と主張した。

鉄鋼業界は、トランプ政権による追加関税が撤廃される可能性が高いと予測する。米鉄鋼協会（AISI）のケビン・デンブシー最高経営責任者（CEO）は5日の米紙ウォール・ストリート・ジャーナルへ「米鉄鋼産業の復活は関税にかかっている」と寄稿した。

# ウメモト インフォメーション

引用 : 日経 / 化学工業 / 燃料油脂 / 新聞展望 / 他( )

2020年 11月 10日

担当者: 岩崎

## パーム油続伸

### 大豆油相場に追随

パーム油の国際市況が  
続伸した。安値拾いの買  
いが入り在庫が漸減した  
ほか、競合の大豆油の相  
場に追随したもよう。10  
月上旬時点で1ト当たり  
2800㊦台。7月から  
17%上昇した。ラニーニ  
ャ現象発生にともなう天  
候不順などが材料視さ

れ、在庫動向によっては  
上値をうかがう展開にな  
りそう。

パーム油は、コロナ禍  
で食用などの需要が激  
減。競合油も全面安とな  
ったため投資家がリスク  
オフで売りを膨らませた  
ほか、原油安でバイオデ  
ィーゼル燃料向けの需要  
も縮小した。市況は年初  
の3000㊦から5月に  
2100㊦台まで下落し

た。6月に入ってから、  
マレーシアのパーム油輸  
出税が年末まで免除され  
たのと同時に、中国・イ  
ンドから食用の買いが復  
活。競合油脂相場の改善  
も材料視され、市況は上  
昇に転じた。

ラニーニャ現象による  
天候不順が影響するとし  
て、大豆油相場などには  
続伸気配がある。また米  
税関当局が、マレーシア

のパーム油大手に対し違  
法労働が認められたとし  
て輸入禁止措置を実施し  
たことも材料視されると  
みられ「在庫動向によっ  
ては緩やかに上値をうか  
がう展開になる」(市場関  
係者)。

# ウメモト インフォメーション

引用：日経化学

2020年11月10日 権野

## 変化速い市場 果敢に挑戦

ポリマー塗加工技術を基幹として、東洋インキグループの中核3社の一角を占めるトーヨーケム。パッケージ・エレクトロニクス分野を主戦場に、グループ内でもとりわけ高い収益率を誇る。パッケージ材料のサステナブル化や高周波通信の普及など2020年代の課題に当面するなか、変化の速い市場に対する積極的なチャレンジを重視」と語る町田敏則社長に今後の展望を聞いた。

▽：足元の事業環境は、「新型コロナウイルス禍の影響で落ち込んだ分野もあるが、総体としてはまずまず。ラミネート接着剤やラベル用粘着剤などのパッケージ材料は、巣ごもり需要を受けて前半期に好調。夏頃に在

### トーヨーケム 町田敏則 社長に聞く



庫調整期があったが、全体を均すと堅調だ」

「エレクトロニクス材料の余地がある」

は、タフレット・PC向け

がリモート需要を受けて伸

長した。スマートフォンは5G対応デバイスの量産本

21年からは主要市場が浮上

する。新常態として育成し

も注力。グループの東洋ア

ていく」

## 新常態にフォーカス

### 5G以降の高周波通信など

格化に期待。来期もデル向けに当社製品の納入が始まり、秋口から復調してきた。スマホ市場は新

野への挑戦を目指すほか、センシング分野への参入も有望だ。人の足跡の解析が

「来期からはコンパニ

「中期スパンでは、顧客

（兼子卓士、高倉鉄平）

リユースとして育成し

▼：パッケージの市場動向

「サステナブル包材への

▼：メディアカル・ヘルスケア

の新興市場向け販売・マーケ

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

ティンクに注力。低誘電率

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

脂や電磁波シールド材料な

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

ト提案を進めていく。しか

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

し、これは中期の成長トレ

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

ンドで、長期では半導体分

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

野への挑戦を目指すほか、

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

センシング分野への参入も

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

有望だ。人の足跡の解析が

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

らビッグデータを収集する

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

チウィータ』は、顧客との

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

実証実験が進展。まずはセ

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

ンサーとしての実用化を図

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

るが、長期では新たなビジ

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

ネスモデルを創出し得るソ

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

ドオーナーへの直接提案に

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「中期スパンでは、顧客

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

との共同開発が中心の貼付

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

型医薬品を育成。このステ

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

ーナシでは欧米・中国市場が

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

見過ごせず、パートナーと

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

なる外資系メーカーを探索

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

している。また超長期のス

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

テップとしては、再生医療

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

用ポリマーの開発を目指

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

す」

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

（兼子卓士、高倉鉄平）

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

双方に新たな価値を提供し

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

る。これまで主力市場や技

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

術領域の違いからシナジー

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

を發揮しにくかったが、「サ

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

ステナブル化」の視点で統

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

合できる。東洋アドレはホ

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

ットメント粘着剤に強く、

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

天然材料系の製品群にも魅

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

力がある。当社の溶剤系・

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

エマルジョン系技術と融合

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

させ、在来市場・新市場の

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への

「サステナブル包材への